

を専攻するドクターコースの教科書として手頃であり、それらの学生はこの程度 of 古植物の知識は常識として知っておくべきであろう。(西田 誠)

○牧野標本館雑記 (3) (檜山庫三) Kōzō HIYAMA : Miscellany from Makino Herbarium (3)

コウヤイタドリ コウヤイタドリ (*Reynoutria hastata* Nakai) というものは、イタドリに比して葉が細長く葉脚が戟形をなしたものであって、はじめ紀州高野山のものに對して、中井猛之進博士 (宇井縫蔵: 紀州植物誌 337 頁, 1929 年) によって、この名が与えられ、1938 年 11 月に改めて正式の発表を見た。また本田正次博士は、中井博士と同一標本に基いて *Reynoutria japonica* Houtt. var. *hastata* (Nakai) Honda として発表されたのが奇しくも 1938 年 3 月であったために、本田博士の変種名が正式発表としては一番早いことになる。その基準標本は高野山の産で、他に上州〔原典には信州とあるが〕熊ノ平が産地として挙げられたが、いずれも花も果実もない標本である。牧野標本館にも牧野先生が採集されたコウヤイタドリの標本があるが、その産地は紀伊高野山 (1919 年)、伊予上浮穴郡岩屋山 (1931 年)、面河溪 (1940 年)、摂津六甲山 (1934 年)、和泉岩湧山 (1938 年) で、いずれも sterile の標本であるが、別に長門熊毛郡大和村 (T. Niyama 氏採集) 産のものがあって、これのみが花果ある標本である。以上の標本によれば莖は瘦せ、高さはおおむね 50 cm 以下、葉は一部又は大部分が戟形をなし、下葉は短広鈍頭で著しく戟状を呈するものが多く、上葉は狭長でかなり著しくとがってくるかわりに、葉脚が戟状とならぬものがある。

このコウヤイタドリはイタドリの生ずる地域にたまたま散発する、イタドリの単なる異形品であって、ケイタドリのようなある程度特別な分布区域をもつものでもないから、品種 (*R. japonica* forma *hastata* Hiyama) として認めておくのが妥当であると考ええる。イタドリは地下莖による繁殖が盛んであるから、場所によってはコウヤイタドリ型のかかなり著しい群生も見られるが、この型では花の咲くものが少ないという事実がある。

なおコウヤイタドリは杉本順一氏 (植物界 1-1: 13, 1926) のホコガタイタドリと同物であると思われるが、後者の方がより早い命名である。

Reynoutria japonica Houtt. forma ***hastata*** (Nakai) Hiyama, stat. nov.

Reynoutria japonica var. *hastata* (Nakai) Honda in Bot. Mag. Tokyo 52: 140 (Mar., 1938).

R. hastata Nakai in Journ. Jap. Bot. 52: 741 (Nov., 1938).

——— Nom. Jap. Kōya-itadori (T. Nakai), Hokogata-itadori (J. Sugimoto).

Distr. Hondo: Kozuke, Kii, Izumi, Settsu & Nagato. Shikoku: Iyo & Tosa.